

終戦記念日の十五日、東京では市民団体が追悼や討論の集会を開いた。この日政府主催の全国戦没者追悼式で、細川首相は

アジアの戦争犠牲者とその遺族に追悼の意を表明したが、市民の集会ではフィリピンの元従軍慰安婦らも出席して悲惨な戦争体験を証言した。

千代田区の日本教育会館では、学者、弁護士、牧師らが呼び掛けてアジアの戦争犠牲者を悼む「8・15市民による追悼の集い」を開いた。

約六百人が参加し、招かれたインドネシア、韓国などアジア五カ国の戦争被害者が体験を証言。フィリピンの元従軍慰安婦クリスティータ・アルコーバーさん(67)は「思い出を話すことは大変つらい。私の痛みを無駄にしないでください。すべての暴力を終わらせるために、すべての戦争に終止符を打ちたい」と訴えた。

同区の総評会館では、評論家針生一郎さんが主催して「戦後補償とPKO」をテーマに討論会を開催、約二百五十人が参加した。

評論家の石川好氏は慰安婦問題について「利用したのは国民だ。私たち自身も反省する必要がある」と訴えた。

戦争体験の継承と責任明確化めざす

わたつみ記念館計画発表

太平洋戦争での戦没学生と遺族らで構成する「日本戦没学生記念会(わたつみ会)」(中村克郎理事長)は十五日、建設構想を打ち出している「わたつみ記念館」の計画内容を発表した。

それによると、記念館は、戦没学生を中心にした戦争体験の理解と継承、戦争責任の明確化を目指し、戦没学生の遺品・遺稿、学徒出陣・動員に関する文書などを収集、展示する。加害者としての側面を見詰めるため、日本以外のアジア、太平洋地域の戦争被害者の資料も集める。

記念館は展示、陳列室、図書室など床面積約五百平方メートルで、五年後の完成を目標に、土地代を除く資金三億円を募金で賄いたいとしている。

問い合わせは同会、郵便番号150、東京都渋谷区代々木二ノ三ノ二一七〇。☎03(2266)2662。

「より具体的な政策と行動を」

比・慰安婦問題弁護士

【マニラ16日】大野拓司「細川首相と土井衆院議長が発言について、フィリピンの従軍慰安婦問題の主任弁護士ロミオ・カブロン氏は「新しい関係作りへの意欲表明として歓迎する。日本が『戦争放棄』を決めた憲法を変えないことも歓迎したい。これからは、慰安婦問題及び戦争の犠牲になった人々に対するより具体的な政策と行動を望む」と語った。